



第4章 被害状況

- 1 人的被害・住家被害
- 2 農林水産関係
- 3 商工関係
- 4 公共土木
- 5 教育施設
- 6 医療・福祉施設
- 7 文化・スポーツ施設
- 8 下水道施設
- 9 上水道施設
- 10 ライフライン
- 11 倉敷市真備支所
- 12 公文書

第4章 被害状況

1 人的被害・住家被害

1 人的被害の状況（令和2年9月1日現在）

死亡者（うち災害関連死）	重症	軽傷
73人（21人）	9人	111人

2 住家被害の状況（平成31年4月5日現在）

全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	床上浸水	合計
4,646棟	452棟	394棟	369棟	116棟	5,977棟

2 農林水産関係

1 農作物の被害状況

被害額：393,740千円（令和元年12月末現在）

	水稲	ぶどう		桃	その他作物(大豆、加工用米等)
被災内容	真備地区での冠水被害	真備地区での冠水被害等	玉島北地区での土砂流入倒木	浅原・玉島地区での土砂流入法面崩落等	
被害面積	347.9ha	2.79ha	0.5ha	1.65ha 浅原：1.34ha 玉島北：0.31ha	22.0ha
被害額	318,136千円	45,732千円	16,619千円	4,534千円	8,719千円

2 農業用施設・機械の被害状況

被害額：3,343,558千円

※被災農業者向け経営体育成支援事業による支援対象（交付決定状況）。

(1) 農業用機械（トラクター、田植機、コンバイン等）

被害台数・・・3,956件

被害額・・・2,728,522千円

(2) 農業用施設

① 農業用ハウス（ぶどう、野菜等）

被害棟数・・・51棟

被害額・・・128,923千円

② 農業用倉庫（農機具格納庫）

被害棟数・・・150棟

被害額・・・486,113千円



被災(土砂堆積)した水路・水田(服部)

3 農地・林地・農業用水利施設等の被害状況

(1)災害復旧費：3,795,941 千円（令和2年8月末現在）

※林地災害復旧費は工事中・未発注分を除く

(2)農地・農業用施設

内 容	倉敷	児島	水島	玉島	船穂	真備	庄	茶屋町	合計
水路 (km)	0.9	1.2	0.4	3.1	0.1	21.6	5.8		33.1
ため池 (箇所)	3	29		16	1	4	23		76
樋門 (箇所)				1		8	2		11
揚水機場 (箇所)				1	1	12	1		15
排水機場 (箇所)	市施工			1		5	2		8
	県施工					7			7
頭首工 (箇所)	1			1		2			4
土砂撤去等が必要な農地 (ha)	0.1		0.1	1.1	0.1	36.9			38.3
林地被害 (箇所)	2	20	3	4	2	2	1	0	34

令和2年1月15日現在



被災した水路・水田(服部)



水路内ごみ堆積状況(川辺)



被災した妙見排水機場



3 商工関係

市内の非住家被害は、床上浸水が1,181棟、床下浸水が18棟、その他の被害が161件（令和2年8月末現在）となっており、浸水被害の大きかった真備地区を中心に、甚大な被害となった。

[地区別被害状況]

商工会/商工会議所	被害件数	被害額	備考
真備船穂商工会	501	13,807,780千円	令和元年12月末現在
倉敷商工会議所	49	548,000千円	真備地区分が21件463,000千円 平成31年4月末現在
児島商工会議所	13	474,700千円	令和元年8月末現在
玉島商工会議所分	1	0円	
つくぼ商工会	3	3,200千円	平成31年2月末現在
合計	567	14,833,680千円	

[真備船穂商工会調べ 被災事業者内訳]

状況	令和元年5月23日現在		令和2年8月31日現在	
	件数(割合)	備考	件数(割合)	備考
営業（縮小営業含む）	374(74.6%)	通常営業229件 縮小営業145件	418(83.4%)	通常営業391件 縮小営業27件
休業中	36(7.2%)		4(0.8%)	
廃業	26(5.2%)		40(8.0%)	
真備地区外で営業再開	—		10(2.0%)	
その他	65(13.0%)	連絡が取れない等	29(5.8%)	連絡が取れない等
合計	501		501	

※真備地区外を含めた営業再開428件（85.4%）

4 公共土木

1 土木施設の被害状況



浸水により道路上まで流出した建築物

(1)道路

地区別	道路損壊	土砂流入	道路冠水	道路への倒木	その他	計
倉敷地区	37	42	68	6	2	155
児島地区	78	70	13	10	62	233
玉島地区	61	60	22	2	11	156
水島地区	18	54	21	12	10	115
真備地区	70	20		2	5	97
船穂地区	8	19	27	1	3	58
庄地区	40	9	16		22	87
茶屋町地区			4			4
計	312	274	171	33	115	905

※真備地区については、真備支所が被災したため、未集計の箇所あり。

※「その他」は、側溝清掃や官民境界不明など。

[道路損壊状況]



真備町川辺 146 号線



風の道(下津井)

[道路土砂流入状況]



真備町箭田 193 号線



玉島陶 2 号線

[道路土砂流入状況]



広江 32 号線

[道路への倒木]



生坂 2 号線

(2)河川

地区別	護岸 損壊	河川名	土砂 流入	河川名
児島地区			2	下村川・大川
玉島地区	1	岩谷川	9	屋守川・深田川(2か所)・岩谷川・ 妙見川・天神川・木出場川・真谷川 支流・道口川
真備地区	2	黒谷川・福原谷川		
船穂地区			1	木出場川
計	3		12	

(3)公園

公園種別	箇所	主な被災状況	主な公園
緑地	14	表土流出、土砂堆積、 法面崩壊・破損 等	高梁川緑地、水島緑地 等
総合公園	3	法面崩壊、路面陥没、 倒木 等	真備総合公園、 瀬戸大橋架橋記念公園 等
風致公園	2	法面崩壊、倒木、 施設破損 等	真備大池ふるさと公園、 殿ヶ居地公園
近隣公園	2	施設破損 等	グリーンパークまび、 まきびさくら公園
街区公園他	50	土砂堆積、倒木、施設破損 等	真備箭田ニュータウン公園、 矢柄新池公園 等
計	71		

[公園土砂堆積状況]



真備箭田ニュータウン公園

[公園法面崩壊状況]



殿ヶ居地公園(藤戸町藤戸)

2 土木施設の復旧状況

土木施設	復旧状況
道路	令和元年5月に全ての土砂撤去が完了 令和2年8月末時点で道路損壊は復旧中の3路線を除き完了
河川	平成31年3月に全ての土砂撤去が完了 令和2年3月に全ての護岸損壊箇所の復旧が完了
公園	令和2年3月に全ての公園の復旧が完了

5 教育施設

1 教育施設

(1)浸水・被災状況等

施設等名称	浸水状況	被災状況
川辺幼稚園	1階床から3.87m	園舎1階が浸水し、使用不可
箭田幼稚園	1階床から1.82m	園舎1階が浸水し、使用不可
呉妹幼稚園	1階床から0.06m	園舎1階の一部が浸水
川辺小学校	1階床から2.75m	校舎1階が浸水し、使用不可
箭田小学校	2階床から0.73m	校舎1・2階が浸水し、使用不可
真備中学校	2階床から0.81m	校舎1・2階が浸水し、使用不可
真備東中学校	1階床から2.67m	校舎1階が浸水し、一部の施設が使用不可
真備陵南高等学校	1階床から3.44m	校舎1階が浸水し、一部の施設が使用不可
真備学校給食共同調理場	床下浸水	備品・消耗品、一部の施設が使用不可
真備歴史民俗資料館	1階床から3.78m	施設2階床下まで浸水し、使用不可
真備図書館	1階床から3.5m	施設2階床上まで浸水し、使用不可
真備公民館	1階床から0.30m	建物1階が浸水し、施設の一部が使用不可
川辺分館	1階床から3.50m	建物1階が浸水し、使用不可
岡田分館	1階床から2.03m	建物1階が浸水し、使用不可
箭田分館	1階床から0.22m	建物1階が浸水し、施設の一部が使用不可
呉妹分館	1階床から1.70m	建物1階が浸水し、使用不可
服部分館	1階床から3.20m	建物1階が浸水し、使用不可
辻田分館	1階床から2.13m	建物1階が浸水し、使用不可
新児島団地子ども広場		擁壁が倒壊し、フェンスが傾く



真備図書館



川辺小学校の教室



真備中学校の職員室



服部分館

(2)ネットワーク環境等の被害

浸水被害を受けた教育施設では、施設内のパソコン、プリンター等が被害を受けたほか、学校園や図書館、公民館を結ぶネットワーク及び情報機器が破損し、使用不能となった。

ネットワーク及び情報機器が被害を受けた施設

川辺幼稚園、箭田幼稚園、川辺小学校、箭田小学校、真備東中学校、真備中学校、真備陵南高等学校、真備図書館



真備中学校で被災した情報機器

6 医療・福祉施設

1 医療施設等

(1)病院

施設等名称	被害状況
まきび病院	浸水被害等の被災なし ・断水や電話・インターネットの回線が使用不能、多くの職員が被災し、診療継続の人員が不足 ・診療継続に必要な設備を急ぎ整え、行政機関やほかの医療機関等、多くの協力を得ながら、平常どおり診療や訪問活動を継続
まび記念病院	1階天井付近まで浸水し全壊 ・被災当日は入院患者、職員等及び近隣の避難者を2階以上及び屋上へ一時避難させる。自衛隊、緊急消防援助隊等の協力でボート・ヘリコプターなどを利用し入院患者を市内病院等へ避難させる ・7月中旬には検診車による仮の診療室や、敷地内へ仮設診療室を設けるなど一部診療を継続。順次病院の改修を進め、9月には病院内で一部の外来診療と人工透析も再開する。12月に入院患者の受け入れ開始。平成31年2月に被災前の診療状況に戻る

(2)診療所

施設等名称	被害状況
生田眼科医院	浸水により全壊 ・休止の後、9月廃業
川辺内科	浸水により全壊 ・短期の休診はあったが、敷地内へプレハブの仮設診療室を設けて規模を縮小して診療継続 ・平成31年1月に診療所の改修が完了し通常診療を再開する
呉妹診療所	浸水により全壊 ・短期の休診はあったが、敷地内へプレハブの仮設診療室を設けて規模を縮小して診療継続 ・診療所の改修が完了し平成31年1月から通常診療を再開する
ささべこどもクリニック	浸水により全壊 ・8月に西阿知へ移転し「西阿知あかちゃんこどもクリニック」を新たに開設
平松整形外科医院	浸水により全壊 ・休止の後、平成31年4月廃業
平本胃腸科外科クリニック	浸水により全壊 ・短期の休診はあったが、8月1日から一部診療を再開し、11月にはほぼ通常診療に戻る。地域唯一の有床診療所であったが、入院受け入れの体制が整わず令和2年3月末で無床診療所へ変更となる
松田医院	浸水により半壊 ・8月末頃に機能縮小して診療再開 ・9月には、ほぼ復旧し診療する
松田クリニック	浸水により半壊 ・診療を一時休止し、診療所を改修後、平成31年1月に通常診療を再開する
源医院	浸水により全壊 ・敷地内へプレハブの仮設診療室を設けて規模を縮小して診療継続 ・平成31年1月に元の診療所建屋の介護施設部分を改修し、診療所として通常診療を再開する
箭田クリニック	浸水により全壊 ・休止の後、平成31年3月廃業

(3)歯科診療所

施設等名称	被害状況
ありい歯科医院	浸水により全壊 ・診療所改修のめどが立たず、一時診療を休止。その後、隣接する自宅の一部を改築し、令和元年9月から新たな歯科診療所として通常診療を再開する（旧診療所は廃業）
植村歯科	浸水により全壊 ・一時診療を休止し、診療所改修が完了後、平成31年3月に通常診療を再開する
桑木歯科診療所	浸水により全壊 ・一時診療を休止し、診療所改修が完了後、12月に通常診療を再開する
ひまわりデンタルクリニック	浸水により全壊 ・一時診療を休止し、診療所改修が完了後、12月に通常診療を再開する

施設等名称	被害状況
水川歯科医院	浸水により全壊 ・一時診療を休止し、診療所改修が完了後、10月に通常診療を再開する
宮本歯科医院	浸水により全壊 ・一時診療を休止したが、9月に介護施設等への往診のみの診療を開始 ・診療所の改修が完了後、平成31年2月に通常診療を再開する
真備歯科診療所	浸水により全壊 ・診療所の改修完了までは、往診のみの診療を継続する ・平成31年1月に通常診療を再開する

2 児童福祉施設等

(1)児童クラブ（6クラブ、児童約200人）

施設等名称	被害状況
箭田にこここ児童クラブ	小学校内の学校施設を利用している児童クラブ室は水没し、全壊
かわべっこ児童クラブ	小学校内の児童クラブ専用施設（軽量鉄骨造）は水没し、全壊
まびっこ岡田児童クラブ	余裕教室を活用していたクラブ室が避難所となったため、閉所
にまっこ児童クラブ	余裕教室を活用していたクラブ室が避難所となったため、閉所
呉妹たんぽぽ児童クラブ	被災を免れたが、専用施設のあるグラウンドが災害ごみの仮置き場となったため、クラブ室が使用不可となった。呉妹小学校内の特別教室で事業を再開
蘭児童クラブ	児童クラブ専用施設は被災を免れ、早期に事業を再開



箭田にこここ児童クラブの被災状況



かわべっこ児童クラブの被災状況

(2)保育園等（5園、児童約390人）

施設等名称	被害状況
まきびの里保育園	1階建ての園舎が水没し、全壊
真備かなりや保育園	2階建ての1階部分が水没し、休園
真備かなりや小規模保育園	1階建ての園舎が水没し、全壊
真備かなりや第二小規模保育園	1階建ての園舎が水没し、全壊
ナーサリーあんど	3階建ての1階保育園部分が水没し、休園

まきびの里保育園、真備かなりや小規模保育園、真備かなりや第二小規模保育園、ナーサリーあんどは、平屋、又は1階部分に保育室があり、水没した。真備かなりや保育園は2階建ての1階部分が水没。いずれも保育の実施が不可能となった。

8月末から保育園での受け入れを順次再開し、公立のまきびの里保育園の園児を代替え施設として旧穂井田幼稚園で保育するなど、平成31年2月までに全ての施設で保育を再開した。

まきびの里保育園は、現地で仮設園舎を建てて11月1日から保育を行っており、令和3年秋をめどに、現地にて新園舎を建設して開園する予定。



まきびの里保育園浸水・被災状況

(3) 児童館

真備児童館は、床上4.7mまで浸水し、屋根の一部を残して水没した。被災後は休館し、10月から真備保健福祉会館3階大会議室の一部を「臨時真備児童館」として、事業を実施した。



真備児童館被災状況

3 真備健康福祉館（まびいきいきプラザ）

平屋建ての建物が屋上部分を除いて水没し、内装及び設備機器類が大きく損傷した。屋内プールのスチレンス底板が大きくめくれあがっていたことから、外部建具の破損箇所からだけでなく、ガラリ（通気口）を設けている半地下のプール機械室まわりからも多くの水が浸入したことが窺えた。

被災後まず、自衛隊をはじめとした災害対応の応援部隊の基地として、施設駐車場を提供した。

次に10月25日から平成31年3月末までの間、多目的広場にプレハブ建物の災害ボランティアセンターを設置し、施設駐車場もその駐車場として使用した。

災害ボランティアセンターを撤去後には、多目的広場にトレーニング室、こどもひろば、レクリエーション室などを備えたプレハブ仮施設を整備し、令和元年10月23日



真備健康福祉館浸水状況

から一部事業を再開した。同時に、被災した建物の復旧も順次進めており、令和3年秋までに完全復旧する見込み。

4 真備高齢者支援センター

真備高齢者支援センター事務所のある施設（ライフタウンまび）が2階まで水没し、建物自体が孤立。1階部分にあるセンターの電話等の通信機器、対応記録、高齢者情報等の資料全てが使用不可となるなど、機能が停止した。

7月8日にセンター職員と連絡がつき、職員の無事と事務所の状態を確認。センターの活動拠点や今後の業務などについて協議を行った。

7月9日に 仮事務所を倉敷地区に置いたが、活動場所の真備地区への移動に、約2時間もかかることから、被災を免れた市の老人福祉センターまきび荘の会議室を活動拠点の一つとして活用した。しかし、真備地区内の移動にも苦慮し、対象となる高齢者の自宅や避難所等への訪問にも多くの時間を要した。

8月16日からライフタウンまびの3階で業務を一部再開。令和元年11月に同施設1階部分の改修が完了し、発災前の場所で業務を再開した。



真備健康福祉館広間の被災状況



真備高齢者支援センター（ライフタウンまび）

5 民間福祉施設等

(1)介護サービス施設等の被害状況

介護老人保健施設：1施設、地域密着型介護老人福祉施設：1施設

通所介護及び訪問介護等：21事業所

施設名（法人名）	被害状況
老人保健施設ライフタウンまび	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が浸水被害 ・同一建物の3階以上に避難。浸水により孤立状態となり自衛隊により救助 ・救助後、利用者は全員、医療機関や他施設へ避難
ライフタウンまび居宅介護支援センター	事業所が浸水被害
地域密着型特別養護老人ホームクレールエステート悠楽	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が浸水被害 ・入所者は全員、高台にある同一法人のシルバーセンター後楽に避難
悠楽デイサービスセンター	
悠楽居宅介護支援事業所	
グループホームひまわり	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が浸水被害 ・同法人のシルバーマンションひまわりへ一時避難。その後、浸水により孤立状態となり、自衛隊により救助 ・救助後、利用者は避難所へ避難
デイサービスセンターひまわり	事業所が浸水被害
訪問介護ステーションひまわり	
デイサービスセンターひまわりホーム	事業所が浸水被害
訪問介護ステーションひまわりホーム	
居宅介護支援センターひまわり	事業所が浸水被害
小規模多機能ホームぶどうの家真備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が浸水被害 ・被災当時は利用者がいなかったが、自宅が被災した利用者に、一部サービスを継続
短期入所生活介護ショートステイあんど	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が浸水被害 ・隣接しているまび記念病院の3階以上に避難。浸水により孤立状態となり、自衛隊により救助 ・救助後、利用者は、医療機関、他施設へ避難
訪問看護ステーションあんど	事業所が浸水被害
ケアプランセンターあんど	事業所が浸水被害
デイサービスセンターあんど	
ヘルパーステーションあんど	
ザグザグショートステイ真備	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が浸水被害 ・利用者は、医療機関、同一法人であるザグスタ中島に避難
ザグスタ真備	事業所が浸水被害
デイサービスセンター米寿	事業所が浸水被害
デイサービスまび	事業所が浸水被害
日の丸介護センター	事業所が浸水被害
そーる訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所が浸水被害 ・総社市の医療クリニックを間借りし、サービス継続

(2)高齢者関連施設の被害状況 (3施設)

施設名 (法人名)	被害状況
シルバー人材センター真備支所	<ul style="list-style-type: none"> ・1階事務所、作業所が浸水被害 ・船穂連絡所に仮移転
ひまわりホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が浸水被害 ・同法人のシルバーマンションひまわりへ一時避難。浸水により孤立状態となり、自衛隊により救助 ・救助後、利用者は避難所へ避難
シルバーマンションひまわり	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が浸水被害 ・浸水により孤立状態となり、自衛隊により救助 ・救助後、利用者は避難所へ避難

(3)障がい福祉サービス事業所等の被害状況 (13施設)

施設名	被害状況
真備地域生活支援センター	2階建ての2階床上まで浸水
マインド ケアホーム・グループホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・真備町箭田の共同生活住居8棟中6棟が浸水被害 ・入所者の一部は浸水前にまきび病院に避難 ・浸水後、残りの入所者・職員が消防により救助された後、まきび病院へ避難
生活介護事業所えん	1階建ての1階が水没
就労継続支援B型事業所いちごの家「ナツ」	3階建ての2階入口まで浸水
相談支援事業所ポラリス	2階建ての2階にある事業所の床上まで浸水
ワークハウス住倉・服部	2階建ての1階が床上浸水
倉敷市まびの道	<ul style="list-style-type: none"> ・1階建ての1階が床上浸水 ・ビニールハウス2棟が浸水
マインド作業所	2階建ての2階床上まで浸水
みんな農園	<ul style="list-style-type: none"> ・2階建ての2階床上まで浸水 ・農作物が浸水被害
ドリーム	2階建ての1階にある事業所全体が浸水
住倉箭田作業所	ビニールハウスが浸水
就労支援事業所えくすべ	1階建ての1階が床上浸水
P.P.P.マンション!倉敷	うち1棟(終:福田町浦田)が1階床下浸水

7 文化・スポーツ施設

1 文化施設

(1)マービーふれあいセンター

真備地区内で最大の公共建物であるマービーふれあいセンターは、1階は全室が浸水（浸水深3.5m）し、電源設備、移動観覧席、大半の舞台専用設備の機能が消失した。

ピアノ3台のほか数多くの備品が使用不能となった。また、広大な駐車場は災害廃棄物の仮置場として利用された。



横転したピアノ

復旧工事開始	令和2年3月
復旧工事終了予定時期	令和3年6月



左写真：泥が堆積したホールロビー

下写真：災害廃棄物の仮置場となった駐車場(7月24日)



(2)横溝正史疎開宅

7月6日23時35分頃発生した朝日アルミ産業(株)工場の爆発事故により、建屋南側の梁にずれと壁面のひび割れ、建屋東側の台所のガラス(1枚)にひび割れが発生した。

2 スポーツ施設

倉敷市立真備柔剣道場

浸水により脆弱化した床・壁の木部は、反りや剥がれが生じた。また、浸水高（1階床上から2.87m、地面から3.88m）までの仕上材（建具含む）は水を含み、膨張又は剥がれが発生した。さらに、一部の配管は漏水しており、汚水管等は泥が詰って使用不可となった。

復旧工事開始	令和2年8月
復旧工事終了予定時期	令和3年3月



真備柔剣道場の被災状況

8 下水道施設

1 下水道施設の被災状況

月日	対応状況
7月5日	職員約25人（処理場含む）が事前配備体制により待機。パトロールなど状況把握を行う
7月6日	職員約40人（処理場含む）が非常配備体制による待機。パトロールなど状況把握を行う
7月7日	[4:00]真備浄化センターの警報装置作動
	[6:30]真備浄化センターの浸水（地盤より4.2m）を現地確認 [14:30]箭田川南浄化センターの浸水（地盤より2.0m）を現地確認
7月8日	箭田川南浄化センターの現地調査を実施（汚水処理機能停止） マンホールポンプ等の下水道施設について現地調査を試みるが、浸水のため実施できず。今後の調査及び復旧方針について対応協議、決定
7月9日	真備浄化センターの現地調査を実施（下水処理機能停止） 下水道管の調査実施（破損L=25.4m、土砂堆積L=432.8m、マンホールポンプ6施設が機能停止）。下水道管路内の水位を下げるため吸引開始（11日まで）



水没した真備浄化センター



TEC-FORCEによる真備浄化センター管理棟内の調査

2 下水道施設の復旧状況

年月日	対応状況
7月10日	緊急措置による真備浄化センターの放流を開始（仮設電源と固形塩素剤による揚水、沈殿、消毒）。国土交通省緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による現地確認及び今後の復旧方針を協議（11日まで）
7月12日	管路修繕完了（L=10.0m、その他は道路復旧時に対応）。マンホールポンプの運転を仮設盤により開始。箭田川南浄化センターの応急復旧による放流を開始（揚水、ばっ気、沈殿、消毒）
7月19日	管路清掃完了
11月5日	真備浄化センター応急復旧による放流を開始（揚水、ばっ気、沈殿、消毒）
平成31年 2月22日	箭田川南浄化センター本復旧による放流を開始
令和元年 5月30日	マンホールポンプ6施設本復旧による運用開始
令和元年 11月29日	真備浄化センター本復旧による放流開始

3 仮設トイレ等の対応状況

災害発生直後から被災者、ボランティア等から仮設トイレの設置要望が多くあり、7月11日から真備地区内の公共用地などに設置を開始した。設置にあたっては、プッシュ型支援として経済産業省に仮設トイレ200基を要請し、そのうち7月18日までに169基を設置した。

月日	対応状況
7月9日	下水道部で仮設トイレの対応準備
7月10日	経済産業省に仮設トイレを要請 真備浄化センターに仮設トイレが搬入（150基）
7月11日	仮設トイレの設置開始
7月17日	真備浄化センターに仮設トイレが追加搬入（50基 合計200基）
7月18日	43か所、169基の設置完了



仮設トイレ設置状況



トイレトレーラー（富士市提供、第二福田小学校）

9 上水道施設

平成30年7月豪雨災害における真備地区での被災状況については、同地区に給水を行っている真備浄水場の冠水による機能喪失及び送水管の破損等により、全域の約8,900戸で断水が発生した。これに対し、市水道局、公益社団法人日本水道協会会員の水道事業者からの応援隊、市水道局が独自に被災時の応援協定を結ぶ水道局委託業者に、災害出動を行った自衛隊からの応援を加え、給水車等による応急給水を実施した。

また、市長の指示により、猛暑の中で被災した住宅の片付けを行う被災者の熱中症及び破傷風予防のためにも、一刻も早い通水を行えるよう、被災数日後より、摂取制限を伴う給水（試験通水）を開始することとした。ただし、摂取制限下で給水される水については、一部水道法を満足しない部分もあるため、飲用を行わないよう広報しつつ、7月9日から試験通水を開始した。その後、被災時の水道応急措置に関する協定を結ぶ協同組合倉敷市管事業協会など管工事組合からの応援もいただき、7月16日に小田川の南側で、7月24日には真備地区全域で断水解除ができた。

1 上水道施設被害状況

(1)対応状況にかかる時系列表（7月6日～8月22日）

月日	対応状況
7月6日	職員全員招集 総社市下原の工場爆発により真備浄水場停電・送水不能
7月7日	土砂崩れにより田口配水池への送水管破損 真備浄水場冠水・機能停止 真備地区全域（約8,900戸）で断水 岡山県広域水道企業団へ送水増量要請（以降、随時要請） 第一環境株式会社に派遣要請（給水車1台）
7月8日	日本水道協会岡山県支部に派遣要請（給水車6台、組立式給水タンク2基）
7月9日	試験通水（小田川の北側の一部）
7月10日	日本水道協会岡山県支部に派遣要請 （給水車20台追加、給水パック3万袋、バルブ操作20人、修繕10人） 協同組合倉敷市管事業協会に修繕活動依頼 真備浄水場操作盤類洗浄外復旧作業の開始
7月11日	試験通水（小田川の南側の一部） 真備浄水場取水井洗浄・水替開始
7月12日	試験通水（小田川の南側全域）
7月14日	試験通水（小田川の北側全域）
7月16日	小田川南側断水解消（1,300戸）
7月17日	真備浄水場仮設受変電盤設置
7月18日	真備浄水場電源復旧を受け、各機器類動作確認
7月24日	小田川北側（7,600戸）断水解消に伴い、真備地区全域断水解消 給水車等による応急給水活動終了
7月31日	真備浄水場N T T回線復旧を受け、各機器類動作確認
8月22日	真備浄水場仮復旧による稼働開始

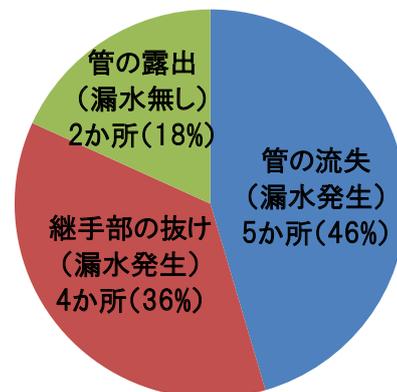
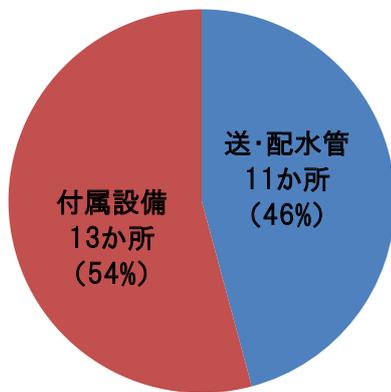
(2)水道施設の被害状況

①管路の被害状況

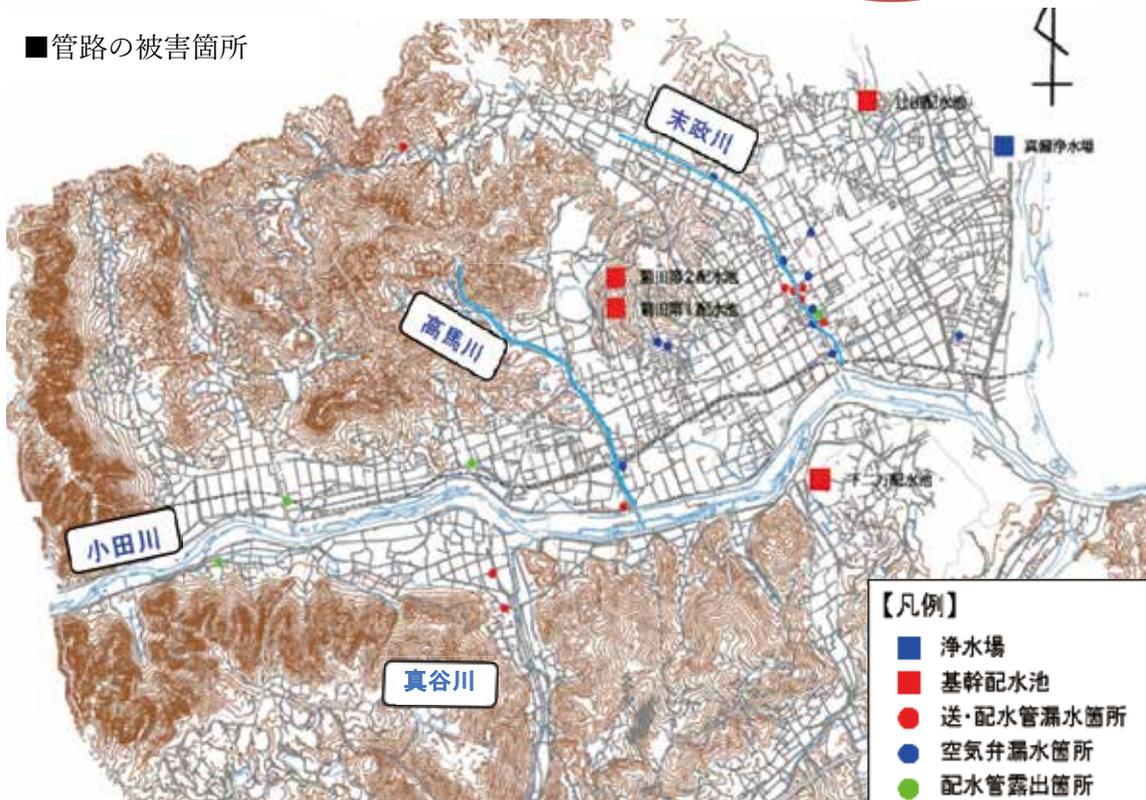
送・配水管等		被害形態			計	
		漏水発生		漏水なし		
		管流失	継手部の抜け	管の露出		
送・配水管	埋設管	4	3	2	9	11
	添架部	1	1	—	2	
付属設備 (空気弁・仕切弁)	仕切弁		1	2	3	13
	空気弁		10	—	10	
給水管			68	2		70
合 計						94

■管路における送・配水管と付属設備の被害内訳

■送・配水管における被害形態の内訳



■管路の被害箇所



[末政川堤防決壊で破損した送水管本体(左)と離れた箇所で発見された送水管の一部(右)]



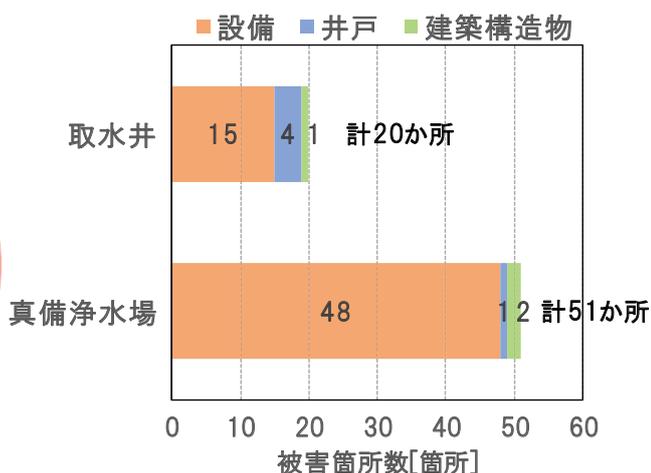
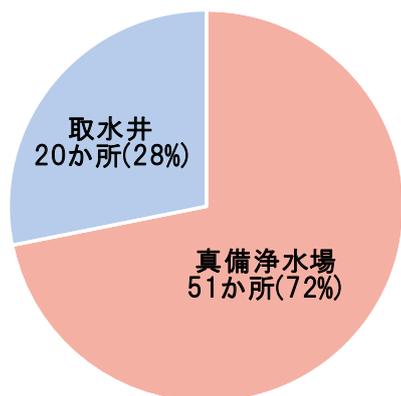
[道路崩壊による管路露出(真備町市場地区)]



[空気弁の漏水]



②施設の被害状況



施設	被害形態
取水井 (5か所)	設備 (操作盤等の盤類4か所、計測機器類7か所、通信設備3か所、管1か所) 建具 濁り
真備浄水場	設備 (電力盤及び制御盤等の盤類18か所、中央監視装置2か所、通信設備2か所、空調設備2か所、ポンプ類15か所、計測機器類4か所、I T V監視設備3か所、水槽汚濁2か所) 建具 濁り

[真備浄水場の被害状況]



真備浄水場全景



中央監視室

[取水井の被害状況]



4号取水井



井戸内部

倉敷市水道局の災害対応は、「平成30年7月豪雨災害対応報告書(倉敷市水道局作成)」もご参照ください。

10 ライフライン

真備地区では、有線電話が全域で不通になった。携帯電話についても、基地局が機能しなくなり、利用できる基地局にアクセスが集中したことから、音声通話が断続的に途切れる障害が発生した。

また、電気施設・交通機関も浸水や土砂災害により、真備地区を中心に大きな被害を受け、停電や運行休止となり、市民生活に重大な影響を及ぼした。

[電気・電話の主な被害状況]

種別	被害状況等	対応
電気	最大で2,200世帯が停電	7月12日19時10分 仮送電完了
有線電話	加入電話(フレッツ・ADSL/ISDN) 3,100回線(80回線)	8月3日10:00時点までに通信ビル水没に起因する固定電話等の障害が回復
	フレッツ光等(ひかり電話等) 2,900回線(2,200回線)	
	専用線等	
携帯電話	大雨の影響による停電及び伝送路故障等のため、繋がらない、または繋がりにくい状況が発生	7月13日15時30分までに、大手3社の通信障害が回復

資料：内閣府「非常災害対策本部 平成30年7月豪雨による被害状況等について」、岡山県「平成30年7月豪雨災害検証報告書」、中国電力倉敷営業所、NTT西日本ホームページ



井原鉄道吉備真備駅の浸水状況(7月7日12時)



伯備線 倉敷～清音 斜面崩壊
(JR西日本提供)



土砂災害により倒壊した電柱
(オノ峠吹上線)

[公共交通機関の主な被害状況]

種別	被害状況等	対 応
鉄道	井原鉄道井原線の全区間で運行休止 (7月6日時点)	7月10日 一部再開(三谷駅～神辺駅間) 7月18日～9月2日 代替輸送として、総社駅～三谷駅区間で代替バスを運行 9月3日 全線開通
	JR 在来線 7月5日以降、最大で全10路線が運行休止(岡山県内)。 ・山陽本線 ・瀬戸大橋線・宇野みなと線 ・伯備線	7月9日 笠岡～瀬戸再開 7月9日 全線再開 7月11日 総社～岡山間再開
路線バス	両備バス ・倉敷駅～青葉町～霞橋車庫線 7月7日 迂回運行のち、全便運行休止。 ・倉敷循環線(倉敷駅～市役所・笹沖・堀南・成人病センター～倉敷駅) 7月7日 全便運行休止 ・新倉敷駅～玉島中央町線 7月7日・8日 全便運行休止 7月9～12日 爪崎南～玉島中央町間迂回運行 ・中庄駅～コンベックス岡山～天満屋線 7月10～13日 中庄駅～下撫川間迂回運行	7月8日 通常運行 8日 通常運行 7月13日 通常運行 7月14日 通常運行
	下電バス 7月7日 一部路線で運行中止 天城線、塩生線、古城池線、瀬戸大橋線、下津井循環線、王子ヶ岳線、下津井線、中庄線、倉敷発空港行リムジンバス	7月8日全線再開
	井笠バス 新倉敷-寄島線 運行休止	7月13日再開
	真備地区コミュニティタクシー	8月1日 一部再開(真備復興支援バスによる代走) 平成31年1月4日 全線で運行再開

資料：内閣府「非常災害対策本部 平成30年7月豪雨による被害状況等について」、岡山県「平成30年7月豪雨災害検証報告書」、JR西日本ホームページ

11 倉敷市真備支所

真備支所では現場パトロールを行うなど情報を収集し、災害対策本部と連携・連絡し、災害対応にあたっていたが、支所への浸水、停電等により、地区内の状況を確認できない状況となった。

支所2階の床下(1階天井)まで浸水し、避難してきた住民や支所職員等が、庁舎内に取り残され、全員が救助されたのは、7月8日昼過ぎであった。



真備支所1階に流入する水(7月7日4時前頃)

1 真備支所の状況

(1)支所への一時避難・救助の状況

雨が降り続いており、支所に避難された方には、高齢者、障がい者、ペット同伴の方などもおり、着衣が濡れた方や、はだしのままの方も多く、体が冷え震えている方もいた。

避難者数は、延べ約300人弱、ピーク時は150人を超えていた。



真備支所から撮影した屋外の状況



2階への階段まで浸水する真備支所



真備保健福祉会館の浸水状況(7月7日)

(2)避難・救助の経緯

月日	時刻	庁舎内の状況
7月6日		深夜から近隣住民が支所の2階へ避難
7月7日	3時過ぎから4時	庁舎に浸水の危険性があるため、避難住民を支所3階へ誘導し、職員は2階へ避難。その後、避難住民を保健福祉会館3階へ誘導。職員は3階廊下等で、交替で仮眠。2階下まで浸水
	7時頃	支所に救助チームが到着、近隣住民の救助活動を開始 ・職員4人（うち保健師2人）で、保健福祉会館3階大会議室を救助された住民を受け入れる避難所として準備 ・支所内の防災資材のマット、毛布、水、非常食、救急箱、簡易トイレ等を避難所に配置
	8時頃	ゴムボート（1艇～3艇：倉敷市消防局、応援レスキュー等）で救助した避難者を1階屋上から運び入れ、保健福祉会館3階の避難所へ誘導 ・卓球フェンス等を利用し避難者のプライバシー保護に配慮。着衣が濡れている避難者へは、支所にあったイベントジャンパー等の衣服やタオル等を提供し手当する ・避難者へ飲料水・非常食を提供し、保健師による声掛けをする
	12時頃	市職員による小型船（定員20人）で、住民を福松橋北詰まで運び、そこから二万橋北詰（避難所へのバス輸送の発着場所）へ車両で移送する ・支所へ残った職員約20人は、救助された方の搬送ボートへの乗り降りや上陸の際の介助を行う ・支所から二万橋北詰への小型船搬送は、7日は約15人を約10回往復（11時～18時日没）、8日は数回（8時から水位が下がってきた昼過ぎまで）行った
7月8日	12:30	支所職員は救助援助を随時行い、8日12時30分、最後のボートで全員救出される



真備支所の浸水状況(7月7日)



救助ボートから見た真備支所(7月8日)

3 被害状況

(1)真備支所

損傷	内容
建築内装材	床、壁、天井、ガラス等
機械設備	空調機器、衛生器具、配管及びダクト、保温材等
電気設備	配線、受変電設備等
電話設備	電話機、ファックス
エレベータ設備	支所1基（配線、照明）、保健福祉会館1基（全損）
公用車	軽乗用車5台、軽貨物車9台、軽トラック3台、普通乗用車1台、 広報車1台、道路パトロール車1台 計20台



真備支所1階及び真備保健福祉会館の被害状況(天井まで浸水)

(2)情報機器の被害

真備支所のパソコンやかわせみネット通信拠点として支所に設置していた機器が水没し、被害を受けた。

備品名	数量	備品名	数量
パソコン	120台	三次局スイッチ	22台
通信ラック	15台	避難所カメラ	9台
UPS(無停電電源装置)	5台	電源制御装置	11台
フロアスイッチ	4台	ハブ	11台
エッジスイッチ	9台	シングルメディアコンバータ	13台

4 真備支所の復旧

年月日	状況
7月7日	未明に、1階天井まで浸水する
7月9日	真備総合公園体育館へ、真備地区本部機能及び支所機能を移転する
8月4日	支所の2階で住民票発行など、一部業務を再開する
8月16日	支所の2階で通常業務を再開したことで、全業務再開となる
平成31年 4月1日	復旧工事が完了。1階で業務を再開した



真備総合公園体育館に移転した真備支所の様子(7月16日)



窓口業務一部再開の様子
(支所2階、8月4日)



全業務再開の日に合わせて懸垂幕を掲示した
(8月16日)

12 公文書

1 平成30年度の水損公文書処置

水損した真備地区の各学校園及び真備支所の公文書を処置した。庁内で「倉敷市水損公文書保全プロジェクトチーム」（総務局と教育委員会）を設置し、岡山県立記録資料館など専門機関や専門家の指導を受けながら実施した。

(1)日程

平成30年12月11日～平成31年3月31日

(2)場所

倉敷市立真備中学校体育館及び美術室

(3)作業内容

乾燥、ページめくり、クリーニング

(4)参加者（平成31年3月31日現在）

倉敷市総務課歴史資料整備室職員、真備支所職員、シルバー人材センター労働者派遣など、延べ380人（真備保健福祉課職員を除く）

(5)処置文書量（平成31年3月31日現在）

646点（約4万5千枚：真備保健福祉課のものを除く）。真備中学校で作業をしていた文書等は、平成31年3月下旬で作業終了し、平成31年4月上旬までに支所及び各学校に戻した。



水損公文書の処置



県立記録資料館職員による水損公文書処置の指導



冷凍保管している公文書

※歴史的に重要でカビ被害が著しい文書（真備支所及び教育委員会、約60コンテナ）は、真空凍結乾燥に備えて岡山中央冷蔵㈱の協力によりビニール袋に入れて冷凍保管（平成30年8月から令和2年1月）。

2 令和元年度の水損公文書処置

(1)日程

令和元年6月18日～令和2年3月31日

(2)場所

真備支所3階歴史資料整備室内

(3)作業内容

- ・国土調査課が真備支所から引き上げた水損公文書（地籍調査票・地籍簿・地籍図）の処置（乾燥、ページめくり、クリーニング）

- ・真備支所市民課の水損公文書の処置（乾燥、ページめくり、クリーニング）
- ・真空凍結乾燥した学校園の公文書の処置（乾燥、ページめくり、クリーニング）
- ・真空凍結乾燥した土地台帳の処置（乾燥、ページめくり、クリーニング）

(4)参加者（令和2年3月31日現在）

歴史資料整備室職員、シルバー人材センター労働者派遣、ボランティアなど、延べ474人

(5)処置文書量（令和2年3月31日現在）

3,790点（約10万3千枚）

※歴史的に重要でカビ被害が著しい文書（真備支所及び教育委員会、約60コンテナ）は、福岡市埋蔵文化財センターで真空凍結乾燥した。（令和元年11月から令和2年3月）



福岡市埋蔵文化財センターで真空凍結乾燥